

令和 8 年（2026 年）9 月 1 4 日



令和 8 年度入学者選抜における出題誤りについて

1 対象入学者選抜の概要

- ・種類：特別選抜（社会人選抜）
- ・実施期日：令和 7 年 11 月 30 日（日）
- ・試験科目：化学・生物
- ・合格発表日：令和 7 年 12 月 8 日（月）
- ・学部学科：環境共生学部 環境共生学科 食健康環境学専攻
- ・募集定員：若干名
- ・当該専攻の受験者：1 名
- ・合格者：なし

2 出題誤りの内容

- ・「化学・生物」の問題Ⅱの間 3 において、問題文の誤記により正解を導き出せないものとなっていました（別紙を参照）。

3 判明の経緯

- ・令和 8 年 6 月 29 日、外部から、当該問題の意味を確認する問い合わせがあり、学内での検証の結果、出題誤りであることを確認しました。

4 受験者に対する対応

- ・合格発表後に出題誤りが判明したため、当該問題（「化学・生物」の問題Ⅱの間 3）について受験者全員を正解とし、再度採点を行い合否判定を行った結果、当初の合否からの変更はありませんでした。

5 再発防止に向けて

- ・入学者選抜の問題作成に当たっては、学内において複数人が複数回チェックを行っていますが、今回、その過程において誤りを発見することができませんでした。
- ・今後、原因調査を行うとともに、チェック体制を強化して再発の防止に努めてまいります。

本件に関するお問い合わせ先
熊本県立大学 教務入試課
TEL 096-321-6610
E-mail : nyusi@pu-kumamoto.ac.jp

別 紙

[出題ミスの内容]

「化合物 A をヨードホルム反応させたところ」と記載すべきところ、「化合物 A をヨードホルムと反応させたところ」と記載していたことから、文章の意味が出題意図と変わってしまい、問 3 は正解を導き出せないものとなっていました。

問題 II 炭素、水素、酸素原子のみからなる分子量 72.0 の鎖式構造をもった有機化合物 A は、以下の (1) ~ (6) の性質をもつ。以下の問 1 ~ 問 8 に答えなさい。
なお、化合物の構造を決定する問題については、構造に至るまでの根拠や考察の流れを簡潔に記述すること。

- (1) 化合物 A の元素分析値は、炭素 66.7 %、水素 11.1 %であった。
- (2) 化合物 A をフェーリング液と反応させたところ、変化が見られなかった。
- (3) 化合物 A をヨードホルムと反応させたところ、黄色の沈殿が生じた。
- (4) 化合物 A にナトリウム金属を加えると水素ガスが発生した。
- (5) 化合物 A は臭素水を脱色した。
- (6) 化合物 A には幾何異性体は存在しないが、光学異性体が存在する。

問 1 化合物 A の分子式を求めなさい。

問 2 (2) の性質から、化合物 A が有していないと考えられる官能基を、官能基名で答えなさい。

問 3 (3) の性質から、化合物 A が有していると考えられるすべての官能基を、 -COOH や -OH のように構造式で示しなさい。

問 4 (4) の性質から、化合物 A が有していると考えられる官能基を、官能基名で答えなさい。

問 5 化合物 A の構造式を示し、不斉炭素原子には、該当する炭素原子の右上に「*」を付けて明示しなさい。

問 6 化合物 A の構造異性体のなかで、フェーリング液と反応する化合物の構造式をすべて示しなさい。

問 7 化合物 A の構造異性体のなかで、ヨードホルム反応を起こす化合物の構造式をすべて示しなさい。

問 8 化合物 A の構造異性体のなかで、臭素水は脱色するが、ナトリウム金属を加えても水素ガスが発生しない化合物の構造式をすべて示しなさい。